



10年目を迎えた「笠松町あいさつ運動」

あいさつの輪の広がりを実感しました

6月19日と21日の2日にわたって、令和になって初の「笠松町あいさつ運動」を行いました。

この「笠松町あいさつ運動」は、笠松中学校生徒会が校内で行っていた活動を町全体に広げ、元気で明るいつくりで協力したいという思いから出発しました。そこで、笠松中学校生徒会が町や諸団体に働きかけをするとともに、賛同する有志がそこに加わり、「笠松町あいさつ運動」を展開するようになって、今年度で10年目を迎えました。

初めのうちはなかなか定着しなかった運動も、10年目を迎えると、ずいぶん定着してきたことが感じられます。

小学校の校門や玄関で行われている活動では、ハイタッチをして挨拶を交わす姿はとても自然な姿になっています。登校してくる子どもとそれを迎える中学生等がとても打ち解けている姿であふれています。

笠松駅では、通勤・通学で駅を利用する人が、笑顔で挨拶に応える姿が増えてきています。運動に参加している者にとって、こんなにうれしいことはありません。

その他のポイントにおいても中学生ボランティアの参加者が増え、そこに小学生も加わって、通過する人々に大きな声で挨拶をしています。

元号が令和に変わり、高齢化が進む社会において、ますます地域内の人と人の繋がりや関わりが大切な時代となっています。まずは、挨拶を交わすことで、繋がりを作るきっかけにしてほしいと想います。

笠松町あいさつ運動を町民のみなさんと盛り上げていきましょう。



取材を通して・・・西笠松駅前取材をしていると、通りかかった車に向かって挨拶をしている小中学生の姿を見かけました。これまでにない姿に驚くとともに、挨拶への熱い想いを感じました。

